# 第２章　計画の策定にあたって（環境情勢や課題など）

## 世界の主な環境問題と私たちとの関わり

### １　世界の主な環境問題と私たちとの関わり

世界では、人口の増加と活発な経済活動などにより、天然資源やエネルギー、水、食料などの利用や消費が拡大し続けています。そして、地球温暖化の原因となる二酸化炭素（$CO_2$※）の排出など、人びとの活動に伴う環境への影響が増加しています。

その結果、地球温暖化・気候変動※に伴う極端な気象現象の多発、生物種の減少、マイクロプラスチック※などの自然界で分解されにくく、生物の体内に蓄積されやすい化学物質による海洋汚染などが深刻になっています。そして、水や大気の循環、食物連鎖などを通して、私たちの健康や自然環境、生態系への影響が広がってきています。

新型コロナウイルス感染症は、世界の人・モノの動きや経済活動が制限されるなど、深刻な影響をもたらしているほか、一人一人の価値観やライフスタイル※の変革が求められています。

#### （1）持続可能な世界に向けて　～世界のみんなにより良い持続可能な未来を創る～

持続可能な世界を達成するために、2015（平成 27）年の国連サミットで「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ（行動計画）」が採択されました。

そして、「誰一人取り残さない」という理念の下、世界を持続的かつ強くしなやかなものに移行させるため、すべての国に適用される普遍的な目標「持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ※〈参考 1〉）」を掲げました。

ＳＤＧｓのロゴ・アイコン国際連合広報センターより

阿見町の社会経済活動や自然環境も直接的・間接的に世界と繋がっています。私たちも日々の生活や産業活動において SDGｓを意識し、考え、行動していくことが大切です。

#### （2）パリ協定※の推進　～気候変動の緩和と適応を進める～

2015（平成 27）年の気候変動枠組条約※締約国会議で「パリ協定」が採択され、温室効果ガス※排出削減の目標、気温上昇による気候変動の影響への対策強化が盛り込まれました。

今後、地球温暖化対策を温室効果ガス排出削減対策（緩和策）と気候変動の影響による被害の回避・軽減対策（適応策※）の両面から進めていく必要があります。

「ライフスタイルイノベーション」環境省より

阿見町でも、増加する極端な気象現象による災害や健康などへの影響を回避・軽減するとともに、私たちの日々の生活や産業活動からの温室効果ガス排出を削減していく必要があります。

〈参考 1〉　ＳＤＧｓ（エス・ディー・ジーズ）とは、持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）の略で、誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2015 年９月の国連サミットで採択された国際目標

## （3）生物多様性※の保全　～生物多様性は、私たちに多様な恵みをもたらしています～

地球上では、人間だけではなく、動物や植物、昆虫などいろいろな生き物がお互いにつながり合いながら生きています。たくさんの生き物がいて、それらがつながり合っていることを「生物多様性」といいます。

生物多様性は、衣・食・住だけではなく、きれいな水や空気、薬の原料、文化の源泉など、様々な恵みをもたらしてくれており、これらの恵みは私たちが生きていくために欠かせません。

私たちの日々の暮らしや産業、開発が、阿見町や世界の生物多様性に大きく依存し、また、影響を与えています。人間の活動により年間４万種もの生物が絶滅していると言われています。

「考えてください生物多様性」環境省より

阿見町は、かつて生物多様性を支えてきた農林地の土地利用体制の崩壊が深刻になっています。このため。地産地消などの農業保全、林地や耕作放棄地の保全・活用を総合的に進め、生物多様性がもたらす恵みを、将来にわたって享受できるしくみを構築していく必要があります。

## （4）資源が循環利用される社会に向けて　～資源を大切にする社会をつくる～

日本では、一人当たりのプラスチックなどの容器包装の廃棄量が、世界で２番目に多くなっています。捨てられたプラチックごみは、川を流れて湖沼や海に集まり、生物の生息や食物連鎖による生態系への影響をはじめ、人間の健康への影響が問題になっています。

霞ヶ浦湖岸にも多くのプラスチックごみが打ち寄せられているなど、霞ヶ浦の生物多様性や自然とふれあいに影響をもたらしています。

また、毎年約 600 万トンの食べ物（世界食糧基金による世界全体の食料援助量の約２倍）が、食べられるにもかかわらず捨てられています。一方、世界では８億人を超える人が飢餓に苦しんでいます。

私たちは世界中から大量の食料を輸入しているにもかかわらず、大量の食料を廃棄しています。この食料廃棄を減らすことも社会貢献の一つです。また、廃棄処分に伴う温室効果ガスの排出抑制をはじめ、地産地消など地域の農水産業の保全・振興など、さまざまな貢献にもつながります。

プラスチックスマート※、環境省公式サイトより

食べものに、
もったいないを、
もういちど。
NO-FOODLOSS PROJECT

食品ロス※削減国民運動のロゴマーク、農林水産省より

## 2　環境基本計画に係るアンケート結果の概要と課題

### 阿見町のみんなは環境をどう考えているの

2019（令和元）年度に町民・事業者を対象に実施し環境基本計画策定に係るアンケート結果より
集計結果の詳細は別添（阿見町ＨＰ参照）

**住まい周辺の生活環境について**

【町民の声】身近な場所での、ごみのポイ捨てや不法投棄が多いと感じています。

- ごみのポイ捨てや不法投棄がある（35.6%）
- 自動車交通量が多い（19.5%）
- 川や湖沼が汚れている（18.3%）
- 音がうるさい（16.5%）

**住まい周辺の自然環境について**

【町民の声】身近に自然が多く快適と感じているが、水辺に親しむ場所がないなど、自然とのふれあいを楽しめる場所や機会が少ないと考えています。

- 緑が多く快適な場所がある（38.1%）
- 小鳥や虫、魚などの生きものをよく見る（36.7%）
- 四季の花が楽しめる（25.3%）
- 水辺に親しむ場所がある（13.5%）

**住まい周辺の快適環境について**

【町民の声】買い物に便利で。事故や災害が少なく、安心して暮らしやすい環境と感じています。

- 買い物に便利である（41.3%）
- 事故や災害が少ない（36.2%）
- 快適に歩ける歩道がある（24.3%）
- よく利用する整備された公園がある（21.7%）

**大切にしたい・残していきたい環境**

【町民の声】みんなが、霞ヶ浦を大切にしたいとかんがえています。また、緑や並木などのある場所を残していきたいと考えています。

- 霞ヶ浦（80.5%）
- 阿見町総合運動公園（46.6%）
- 茨大通り（43.0%）
- 森,特に広葉樹林（22.5%）
- ふれあいの森（20.9%）

**霞ヶ浦の水環境の保全対策について**

【町民の声】霞ヶ浦の水環境保全対策では、水質汚濁や散乱ごみへの関心が高いです。

- 下水道や生活排水※の整備（36.3%）
- アオコ※、ヘドロ※等の回収（33.8%）
- ごみの回収（21.4%）
- 湖岸の水生植物の再生・保全（11.4%）
- 霞ヶ浦導水事業（8.8%）
- 農業・畜産業の排水、漁業対策（5.6%）

**霞ヶ浦について**

【町民の声】みんなが霞ヶ浦に行ったことがあります。また、霞ヶ浦の恵みとして、６割以上が水源やレクリエーションの場をあげています。

生物多様性や漁場としての認識は、３ 割前後となっています。

**日常生活と環境保護**

【町民の声】４人のうち３人が、よい環境を後世に残すためには，日常が少し不便になってもしかたないと考えています。

この意識は、60 歳代で特に高く、10 歳代と２０歳代で低くなっています。

**環境問題への関心**

【町民の声】地球環境問題への関心が高いほか、資源循環や自然環境、生活環境への関心が高いですが、省エネや再エネなどエネルギーへの関心が低くなっています。

- 地球温暖化など地球環境問題（64.3%）
- ごみやリサイクル、水循環※など資源循環（52.0%）
- 森や林、緑や生きものなど自然環境（50.8%）
- 空気や水の汚れ，騒音などの生活環境（50.1%）

**阿見町環境基本計画について**

【町民の声】ほとんどの人が、阿見町環境基本計画を「知らない」としています。

環境基本計画の普及など、環境問題や取組への理解と共有化が必要です。

**特に優先して取り組むべきこと**

【町民の声】今後、町に優先して取り組んで欲しい環境の対象として、川や湖沼の水質や自然環境の保全、交通・道路の整備、地球温暖化と気候変動への取組の推進が期待されています。

また、今まで進めてきた取組では、ごみのポイ捨て対策や、ごみの減量・資源化に係る対策、農薬等の減量対策、学校と地域の連携による環境保全活動などの取組を進めて欲しいとしています。

**日頃の活動や思い・考えについて**

【町民の声】７割以上の人が、マイバッグ持参や油を排水口に流さない活動を行っています。また、半数以上が食品を無駄なく使うようにしています。

これらの活動と比べ、冷暖房を除く、節電など省エネの各取組は低くなっています。また、環境講座や環境保全活動への参加は低い傾向が見られます。

**事業所（製造業）の取組**

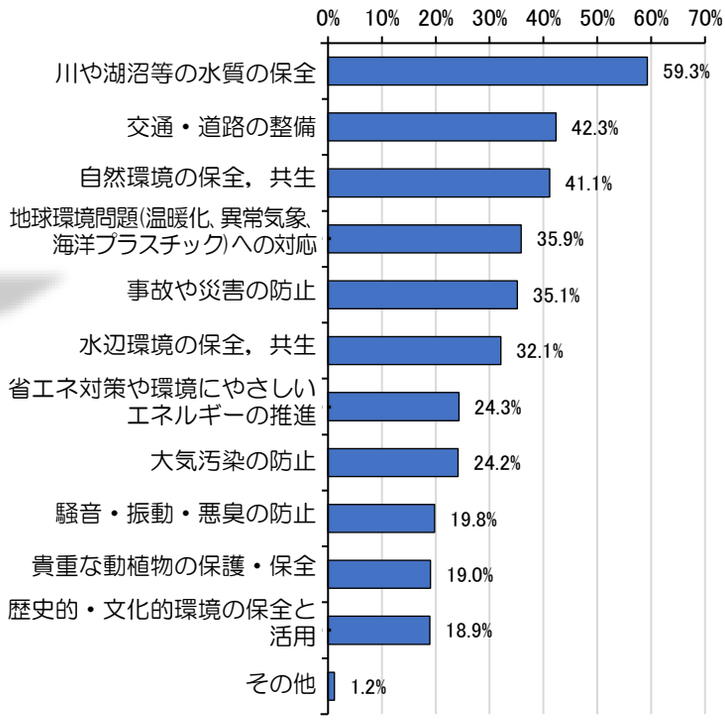
ごみの大量発生、交通量や物流の増大、エネルギーの大量使用が、環境に影響を及ぼしていると考えています。

ISO14001※を除く環境マネジメントシステム※は知っているが、取組は進んでいません。

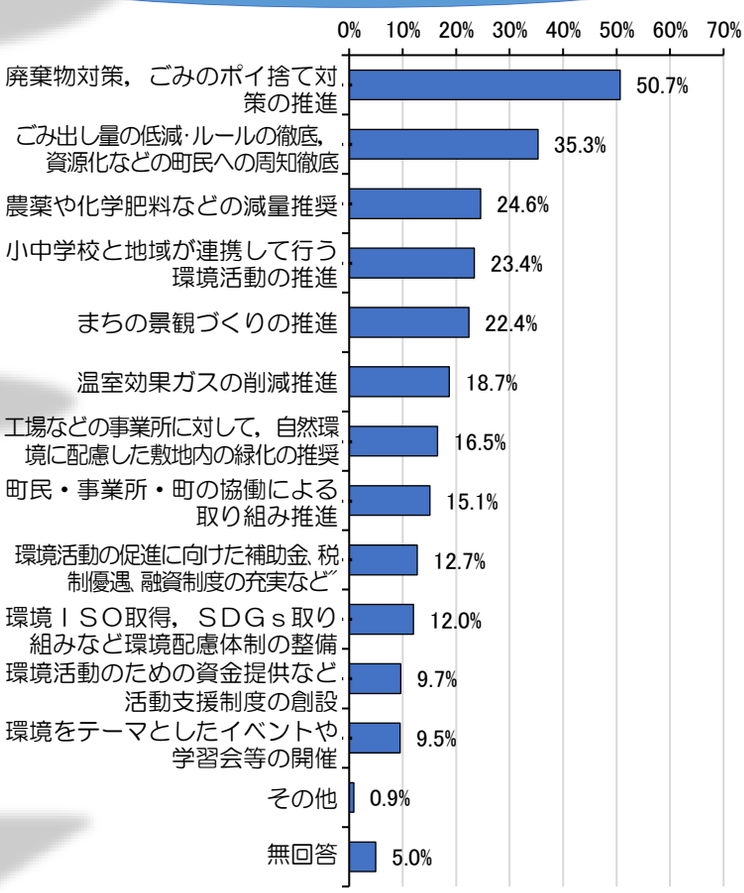
事業所４割以上はSDGｓを知っており、そのうちの７割以上が取組や検討しています。

環境対策は、事業者の社会的責任と考えています。

**特に優先して取り組むべき対象**




**特に優先して取り組むべき取組策**



## 3　私たちの町、阿見町の環境の現状と課題など

### みんなで阿見町の環境を考えてみましょう

地球温暖化（気候変動）や生物多様性、ごみや水問題など、今日の環境問題の多くは、私たちの暮らしや産業活動に起因しています。私たち一人一人が環境にやさしい暮らしや活動を進めていく必要があります。一人一人の取組の効果は小さいですが、集まれば大きな効果をもたらします。そのため、身近で、できることから取り組み、その輪を広げていくことが重要です。

#### ①　社会的条件（人口・産業）

阿見町は人口増加が続いてきましたが、ここ数年は、横ばい状況で推移しています。人口の自然増はマイナスに転じていますが、若い世代を中心に転入の社会増により維持されています。しかし、今後、減少局面に転じていきます。2020 年 4 月 1 日の人口は 47,687 人で、65 歳以上の老年人口率は 28%と超高齢社会に入っています。

産業では、工業・商業とも、東日本大震災後の平成 24 年に事業所数・従業者数・出荷額や販売額が低下しましたが、回復しています。しかし、農業は、販売農家数の減少（2010 年 640 戸→2015 年 507 戸）、世帯員数の減少（2,657 人→1,900 人）、耕作放棄地面積の増加（13,326a→15,415a）が進んでいます。

●今後、地域の農業従事者の高齢化や離農、都市化などに伴う農地の減少や耕作放棄地の増加、農林地の維持管理の低下、空地や空家の増加など

#### ②　恵み豊かな森林や農地の減少

阿見町の所有形態別森林面積は 2015 年 1,000ha（うち県・町有林が 3ha）でほぼ全部が民有林（森林率 14%）です。2010 年から 5 年間で 59ha（5.6%）減少、2005 年以降減少率が高くなっています。2017 年の地目別面積は、山林 1,107ha（15.5%）、農地 3,603ha（33.3%）で、ほぼ半分が農林地です。2010 年比では、宅地 5.8%、雑種地 44.5%増加した反面、畑が 14%、山林 12.8%、田 4.5%それぞれ減少しています。最近では、開発だけでなく、大規模な太陽光発電施設の立地なども減少の要因ともなっています。

●農林地の多面的機能※の低下による水循環や生態系、生活環境への影響、質の低下
●森林の整備・広葉樹林の育成・拡大など、森林機能の回復・再生・向上
●耕作放棄地の自然機能の向上と活用（谷津田※の湿地活用など）
●農林地の多面的機能に対する町民・事業者・行政の理解向上、土地所有者の理解と協力の普及

#### ③　霞ヶ浦の生きものの循環を考える・親水性を高める

霞ヶ浦にはプランクトン、底生動物、魚類、植物、鳥類など多様な生き物が生息し、それぞれが食物連鎖によって繋がっています。護岸整備や水門設置、漁業活動、流入河川流域での生活や産業活動などにより、良好な食物連鎖が途切れ、バランスが崩れ、変化することにより、アオコ大量発生などや生物種・生息数が変化し、私たちにさまざまな影響をもたらしてきました。

●霞ヶ浦が私たちにもたらしている恵みや役割について、知り・考え、再発見する
●霞ヶ浦の良好な生きものの循環（食物連鎖など）のあり方をみんなで考え、共有する
●芦原などの水辺の植物や生物生息環境の保全と育成、生物多様性の保全

また、水質汚濁のイメージが払拭されていないことや、行ってみたいと思う親水空間が少ないことなどが、霞ヶ浦を知る・考える・楽しみ活用する機会を減らしてきています。

●湖岸の親水性の向上など、霞ヶ浦とふれあう・学ぶ機会の充実
●環境美化の推進など、出かけてみたくなる湖岸の親水性・レクリエーション機能の向上

### ④　水環境や水循環を考える

私たちが毎日使っている水道の水源は、霞ヶ浦と深層地下水です。また、町内の森林や土壌中に保水された雨水が絞り水として湧出した水が源流となって、ため池や谷津田、清明川や乙戸川などの水を支え、霞ヶ浦に注ぎながら、生物多様性などの自然の恵みを私たちにもたらしています。こうした自然の水循環や水資源について考え、守り・育んでいく必要があります。

●雨水保水機能の向上、自然の良好な水循環を支える森林や谷津田などの機能の保全・再生と活用
●清明川などの河川やため池の水環境の保全、生活排水対策や水辺の自然浄化機能の保全・再生
●霞ヶ浦の水辺の浄化機能や生きもの循環を育む

### ⑤　“あみの自然”を守り･育み･活かす活動を知る

近年、日常の生活や産業活動の中で、里地里山※の自然との関わりが希薄になり、活用されないまま放置されている農林地が増え、優れた自然を守り・育んでいくことが困難になっています。町内の各地区で、町民や団体によって“あみの自然”を守り・育み・活用し、子どもたちに引き継いでいく活動が行われています。

●“あみの自然”とのふれあいや活用を考える機会の充実
●“あみの自然”を守り･育み･活かす活動をしている団体を知る、活動に参加する機会を増やし、支える
●活動の輪を広げ、継承する

**“あみの自然”を守り･育み･活かす主な環境保全活動団体**（50 音順）

〇阿見里山ワンダーランドの会
〇あみ自然再生ネットワーク
〇阿見町小池城址公園里山の会
〇阿見野鳥クラブ
〇うら谷津再生の会
〇実穀近隣公園ほたる野会
〇神田池を保全する会
〇レイクの森を守る会

※54 ページで主な活動団体の紹介をしています。

### ⑥　ごみをなくし、きれいにする　～子どもたちはポイ捨てがない、きれいなまちが好き～

私たちの暮らしには自然分解されにくい物質や有害な化学物質、希少な資源が使われた物があふれています。これらが適正に資源化や処理されず、ごみとして環境中に流出することにより、生態系や私たちの健康に多大な影響をもたらしているほか、回収や処理に膨大な経費がかかります。

●プラスチックごみや食品ロス※を減らす、資源ごみの分別と回収の徹底、大切に再利用するなど
●ポイ捨てや不法投棄をなくす、ポイ捨てや投棄されにくい環境をつくる
●霞ヶ浦湖岸に漂着や散乱するプラスチックごみをなくし、ふれあえる環境をつくる

### ⑦　安全・安心して快適に暮らしていくために（地球温暖化・気候変動の影響への対応など）

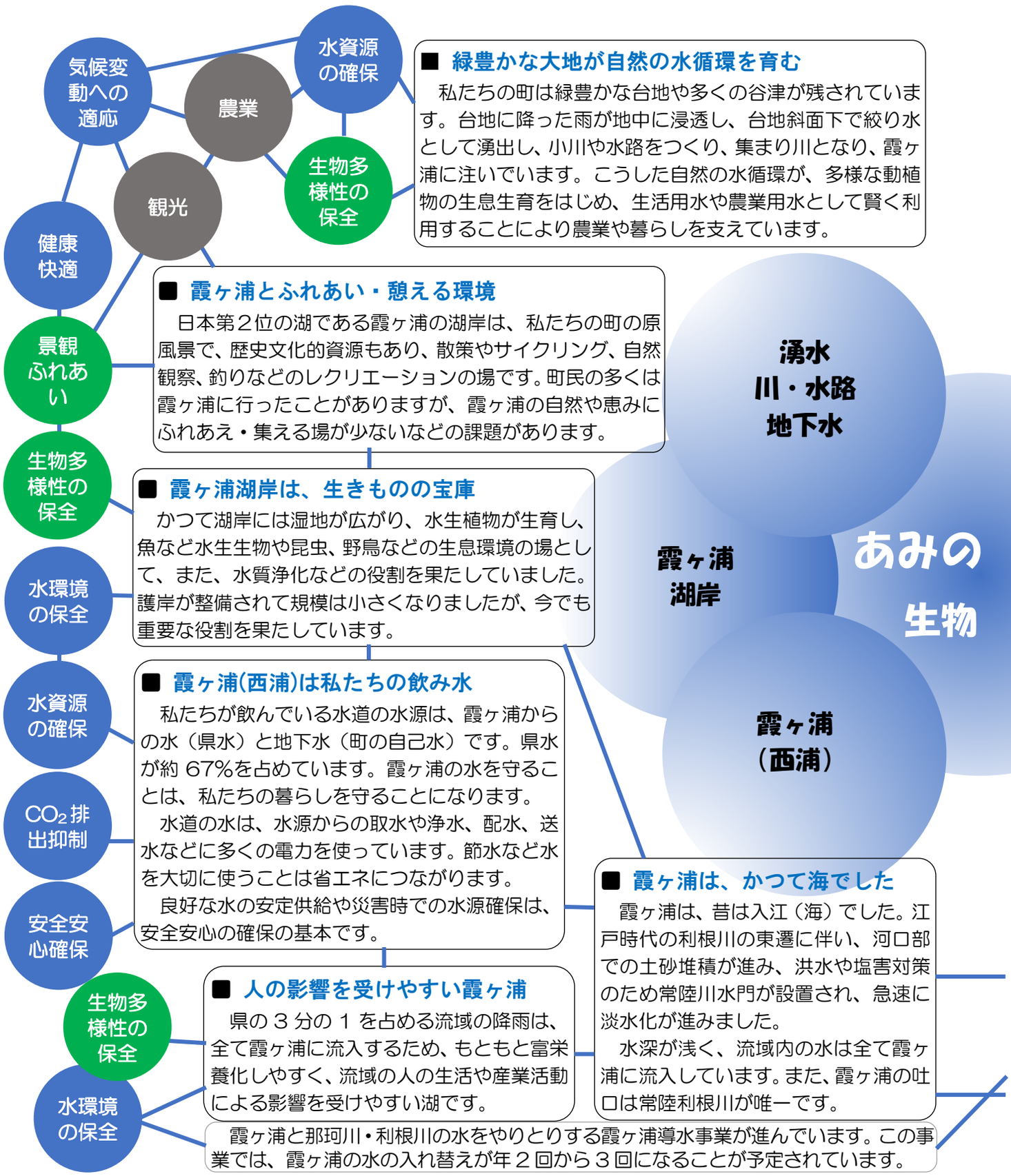
2011（平成 23）年の東日本大震災・原子力発電所事故による放射性物質飛散は、水・食料、農林水業への影響、火力発電への依存、太陽光発電施設の急速な拡大など、私たちの暮らしに大きな影響を及ぼしています。また、気候変動に伴う極端な気象現象の多発は、浸水・強風被害や非常時電源問題、熱中症など健康被害の増加をもたらすなど、安全・安心の確保が大きな課題となっています。

●住まい周辺の自然環境（地形・地盤の災害脆弱性、湧水※や地下水など非常時生活用水の確保、森林や水辺の気温緩和や防風機能など）を知る・考える・対応する
●森林や農地が果たしている防災・減災機能の向上と活用（水源かん養※やオープンスペース等）
●非常時での電力等の確保、太陽光発電や蓄電池を活用した自立分散型エネルギー※の普及
●地球温暖化の緩和への取組の推進（温室効果ガス排出抑制、吸収源・気候緩和の森林の育成）
●再生可能エネルギー※などエネルギー有効利用、ガソリンや灯油などの化石燃料※の使用量の抑制
●温室効果ガス排出のない生活・産業のスタイルの工夫や変革など

### ⑧　子どもの頃からの環境について考え、行動・適応する“ちから”を育む

多様化・複雑化する環境問題に対応していくにあたっては、子どもの頃からの体験や学習が重要です。私たちは、子どもの環境教育や体験学習を一緒に取り組み、支えていく必要があります。

# “あみの自然”と私たちの暮らしとの関わり



## ■ 身近に自然とふれあえる緑など

町内には民有林のほかに、気軽に自然や緑とふれあえる公園緑地、街路樹、社寺林※などがあり、みんなに親しまれています。

これらの緑は、都市熱や騒音・大気汚染の緩和、景観、レクリエーションや避難場所など、さまざまな役割を有しています。

町では、公園緑地里親制度※により、町民・事業者と協働し、公園の美化活動を進めています。

## ■ 台地の農地

温暖な気候と水はけの良い土壌などの自然条件を生かし、東京の野菜供給地として農業が進みました。ホウレンソウをはじめ、特産品のスイカやメロン、ヤーコンなど栽培され、新鮮な食糧が提供されています。

冬は北西の季節風「筑波おろし」が強く、畑などの土塵が舞うなど、農地の管理が課題となっています。

## ■ 豊かな自然を支える森林と谷津田

町内には多くの谷津や森林が残されており、自然の水循環、生物多様性、豊かな自然を形成しています。また、気候変動や都市熱の緩和、大気・水の浄化、雨水の保水・浸透、四季の彩りや自然観察、自然体験、レクリエーションの場など、さまざまな恵みをもたらしています。

かつて、薪炭や堆肥、木材生産の場として利用・管理されていましたが、利用されなくなり、荒廃が進みました。また、農家の高齢化や離農、都市化や工業化に伴い、大きく減少しています。

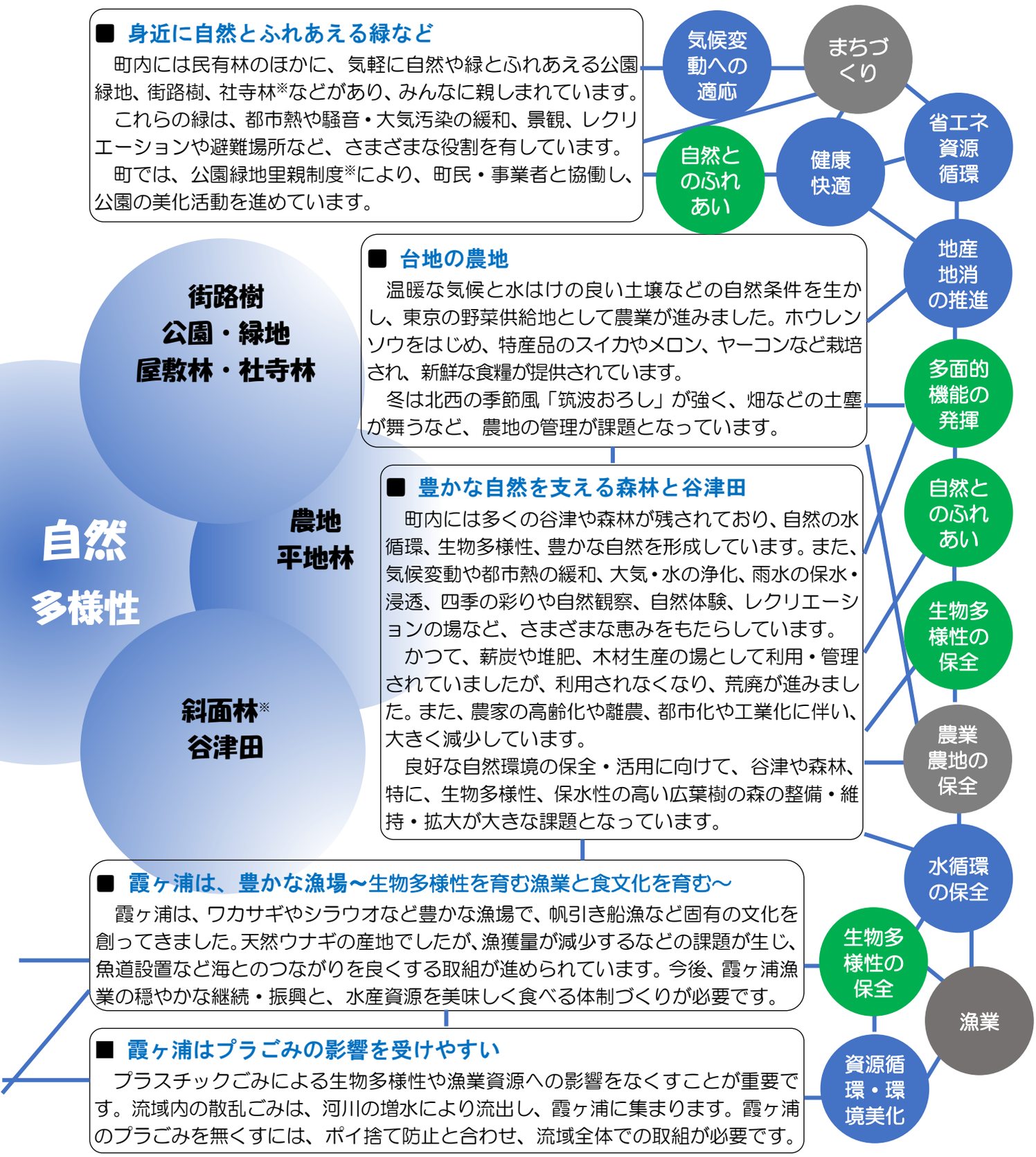
良好な自然環境の保全・活用に向けて、谷津や森林、特に、生物多様性、保水性の高い広葉樹の森の整備・維持・拡大が大きな課題となっています。

## ■ 霞ヶ浦は、豊かな漁場～生物多様性を育む漁業と食文化を育む～

霞ヶ浦は、ワカサギやシラウオなど豊かな漁場で、帆引き船漁など固有の文化を創ってきました。天然ウナギの産地でしたが、漁獲量が減少するなどの課題が生じ、魚道設置など海とのつながりを良くする取組が進められています。今後、霞ヶ浦漁業の穏やかな継続・振興と、水産資源を美味しく食べる体制づくりが必要です。

## ■ 霞ヶ浦はプラごみの影響を受けやすい

プラスチックごみによる生物多様性や漁業資源への影響をなくすことが重要です。流域内の散乱ごみは、河川の増水により流出し、霞ヶ浦に集まります。霞ヶ浦のプラごみを無くすには、ポイ捨て防止と合わせ、流域全体での取組が必要です。



## 4　第１次阿見町環境基本計画の主な取組と課題

町では、第１次計画に基づき、環境の保全等に係るさまざまな取組を行ってきました。主な取組内容と今後の課題を以下に示します。

| 第１次計画の基本方針等 | 主な取組 |
| --- | --- |
| **1　霞ヶ浦の保全**<br>霞ヶ浦の水源を保全し、霞ヶ浦とのつながりを感じる環境を取り戻します。 | 霞ヶ浦の水質浄化と「泳げる霞ヶ浦」をめざして、霞ヶ浦流域 21 市町村による「霞ヶ浦問題協議会」と各種団体および町民で組織する「阿見町家庭排水浄化推進協議会」との連携による取組をはじめ、家庭用使用済み天ぷら油の回収、身近な河川の水質調査、小野川探検隊交流事業、霞ヶ浦水質浄化キャンペーン、霞ヶ浦清掃大作戦が継承・実施されています。 |
| **2　生物多様性の保全**<br>開発においては自然に配慮し、阿見町の豊かな自然環境を守り育てます。 | 町民有志による環境保全基本調査による詳しい自然環境の調査研究が行われました。自らの足で歩き、時間をかけて、町内に生育・生息や観察された動植物などを整理しました。<br>この動植物の調査結果をもとに、有志の協力を得て、「阿見町の自然ガイド 2020～身近な自然の生きものたち～」の冊子が作成されました。今後、この活用と普及が重要です。 |
| **3　ごみの減量・資源化**<br>地球環境への貢献を意識し、日常生活からできることに取り組みます。 | ごみ問題と地球温暖化防止に向けて、2009（平成 21）年に、町民ネットワーク構成団体・事業所・町の３者協定により、レジ袋削減の取組が進められてきています。<br>町民１人１日当たりのごみ排出量は 1,100ｇ～1,200ｇで、ほぼ横ばい状況で推移しています。県平均や国平均よりは 200ｇ前後多くなっています。また、再生利用率は向上してきていますが、県平均や国平均よりは低い状態です。 |
| **4　地球温暖化対策**<br>地球環境への貢献を意識し、日常生活からできることに取り組みます。 | 近年、全国で気候変動に伴う災害や熱中症などが多発しており、今後、気候変動の緩和と適応が求められています。<br>町では、町施設などからの $CO_2$ 排出抑制に向け、地球温暖化対策実行計画を策定し、削減に努めています。また、家庭向け LED 化や自立分散型エネルギー※設備導入事業費補助などを行ってきています。<br>町内からの $CO_2$ 排出量の４分の３が製造業など産業部門からの排出で、排出割合は県や全国平均と比べ高く、製造業が活発な町です。 |

第１次計画では、町民・事業者・町の各主体への計画の普及をはじめ、計画に掲げた取組の推進及びチェックする組織・体制づくりが進まなかったことが、今後の課題となっています。

## 今後の主な課題

霞ヶ浦と筑波山

●身近な自然資源としての霞ヶ浦の認識普及
- 町民による霞ヶ浦の特性と暮らし・産業・文化への役割や価値の再発見・発信
- 子ども霞ヶ浦学・講座の推進、教育支援

●霞ヶ浦のプラごみ対策の推進

●霞ヶ浦の水質保全と水質浄化対策の推進
- 健全な水循環の確保、流域連携と交流の推進

阿見町の自然ガイド 2020

●「阿見町の自然ガイド 2020」の発信・普及
- 「阿見町の自然ガイド 2020」を活用した環境教育・環境学習教材の充実と学習支援
- 自然とのふれあいを楽しむ活動・行動の促進

●生物多様性保全の推進

●農林地・水路・農業の多面的機能の発揮
- 地産地消の推進、農林地の活用・管理支援

●環境に配慮した適正な土地利用・開発の推進

霞ヶ浦清掃大作戦

●５Ｒ※の推進、ごみの減量・資源化の推進
- フードバンク※など食品ロス対策の推進
- 分別の徹底、ごみ収集･資源回収体制の充実、適正なごみ処理の推進
- 地域循環共生圏※の検討

●ポイ捨て防止の普及と環境美化活動の推進
- 霞ヶ浦のプラごみ対策の推進（再掲）

●空家・空地対策の推進、他

●気候変動の影響への適応の推進
- 気象災害の減災、熱中症等健康対策など

●再生可能エネルギーの自立分散型エネルギー※としての活用と普及

●COOL CHOICE※の普及・省エネルギー※対策の推進
- バス利用環境の向上、スマートモビリティ※など環境にやさしい移動手段の確保
- 霞ヶ浦や緑を活かした温室効果ガス排出の少ないまちづくりの推進、他